

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ガイドヘルパー講座Ⅰ Course of Study on Mobility Guide I		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(ガイドヘルパーユニット必修)	ガイドヘルパー講座Ⅰだけの履修は認められない。ガイドヘルパー講座Ⅱ、Ⅲも必ず履修すること。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ガイドヘルパー講座Ⅱ、ガイドヘルパー講座Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ガイドヘルパー講座Ⅱ、ガイドヘルパー講座Ⅲ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
障害者福祉に係る制度およびサービス、視覚障害・知的障害・全身性障害に関する疾病およびその生活障害等について学習する。また、障害児者の居宅介護について理解し、移動介護従業者に必要な基礎知識を修得する。				
授業の目標				
①移動介護従業者として利用者に関わる問題意識を持つことができるようにする。 ②利用者の様々なニーズを把握し、それを説明できるようにする。 ③様々な障害原因とその障害に応じたサービスを展開することができるようにする。 ④外出時における移動に関する知識及び技術を修得することができるようにする。 ④移動介護従事者として、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行うが、必要に応じてグループ討議などの演習方式を取り入れる。ガイドヘルパーに必要な実践的能力の習得を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①移動介護従事者に関する対人援助活動の専門職としての知識及び具体的な技術を学び、利用者に関わる問題意識を持つことができる。 ②移動に関する知識及び技術を習得し、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、他科目との統合について(30分) 障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義①：移動支援サービスに関する基礎知識(60分)			
第2回目	障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義②：障害者(児)福祉の制度とサービス(90分)			
第3回目	障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義③：障害者(児)福祉のサービス(30分) 身体障害者居宅介護等に関する講義①：ホームヘルプサービス制度の概要(60分)			
第4回目	身体障害者居宅介護等に関する講義②：移動支援サービスの概要、ガイドヘルパーの業務、職業倫理(90分)			
第5回目	身体障害者居宅介護等に関する講義③：職業倫理(30分) 全身性障害者の疾病、障害等に関する講義①：疾病の理解(60分)			
第6回目	全身性障害者の疾病、障害等に関する講義②：障害の理解(60分) 障害者の心理に関する講義①：中途障害者および先天性障害者の心理(30分)			

第7回目	障害者の心理に関する講義②：家族の心理(30分) 強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義①：強度行動障害とは(60分)	
第8回目	強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義②：強度行動障害と医療(90分)	
第9回目	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義①：強度行動障害と制度、構造化(90分)	
第10回目	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義②：支援の基本 虐待防止と身体拘束(90分)	
第11回目	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義③：支援の実際(30分) 強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義①：チーム支援の重要性(60分)	
第12回目	強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義②：支援の原則(60分) 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習①：アセスメント、情報の入手と方法(30分)	
第13回目	基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習②：記録と情報共有(30分) 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習①：コミュニケーションの理解(60分)	
第14回目	行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習②：固有のコミュニケーション(90分)	
第15回目	行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習③：コミュニケーション方法(30分) 危機対応と虐待防止に関する演習(60分)	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	80%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
①ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編 中央法規出版 ②強度行動障害支援者養成研修 [基礎研修・実践研修] テキスト 行動障害のある人の「暮らし」を支える 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：児童指導員・生活指導員（障害児・者に係わる業務）・東京都登録ガイドヘルパー、 職歴：通算8年）ガイドヘルパー講座Ⅰ～Ⅲの単位を取得し、必要な手続きをすると、「修了証明書」が発行される。「移動介護従業者（ガイドヘルパー）」となるための必須科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		